

社団法人私立大学情報教育協会
平成 29 年度第 1 回 基本調査委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 29 年 4 月 8 日 (土) 午前 10 時 00 分から 13 時 00 分まで
II. 場所 : 私情協事務局
III. 出席者 : 高橋理事、真鍋委員長、井上委員、尾崎委員、今井委員、高木委員、片岡委員、竹内委員
井端事務局長、森下、中村

IV. 資料

- ① 平成 28 年度私立大学教員の授業改善調査中間報告の概要
② 平成 28 年度私立大学教員の授業改善白書 (案)
③ 平成 28 年度私立大学教員の授業改善白書 ICT 活用事例 (現在・将来) 検討リスト

V. 議事内容

1. 平成 28 年度私立大学教員の授業改善白書について

○中間まとめの概要について

中間集計の概要について理事会、総会で報告した内容を資料①で確認した。

2. 平成 28 年度私立大学教員の授業改善白書 (案) について

2-1 回答状況について

本協会加盟の大学・短期大学の全専任教員 (助教以上) を対象に調査した結果、3 月末時点の最終集計結果は以下の通りであることが報告された。

	調査対象		回答状況		回答率
大学	230 校	52,183 名	206 校	15411 名	29.5%
短期大学	66 校	1,608 名	60 校	714 名	44.4%
合計	296 校	53,791 名	266 校	16125 名	30.0%

2-2 平成 28 年度私立大学教員の授業改善白書の内容検討

中間まとめの概要及び分野別の集計結果を踏まえて、平成 28 年度私立大学教員の授業改善白書 (案) について、以下のように検討した。

● 教育現場での問題認識

- (1) 学生の学修に関する問題
(2) 教員に関する問題

特に修正は無く、中間集計の分析通りとした。

● アクティブ・ラーニング (AL) に対する取り組み

- (1) アクティブ・ラーニング (AL) の実施状況
特に修正は無く、中間集計の分析通りとした。
(2) アクティブ・ラーニング (AL) を実施する目的

学系・分野別の集計結果を踏まえて、「特に芸術系、教育系などでは、プロジェクトで実践的に体験させる問題発見・課題探求型 AL の傾向が見られる。また、保健系、情報科学系などでは、答えが一つではない問題解決型 AL の傾向が見られる。」の表現を追加した。

(3) アクティブ・ラーニング (AL) の実施内容

- ・10%以上としていた表現を「10 ポイント以上」に修正した。
- ・分野別の集計結果を踏まえて、「芸術系と社会科学系では大学平均より 8~10 ポイント以上高くなっておりと追加した。
- ・中間まとめでは、「クロスしてみると、知識の活用、問題発見・課題探求を目指した授業で

実施されている傾向が見られる。」としたが、調査結果からそこまでは判断できないためこの表現を削除し、クロス集計結果に人数を記入することにした。

(4) アクティブ・ラーニング（AL）の教育効果

- ・解析結果の説明を、設問順に記述することにした。
- ・アクティブ・ラーニング（AL）の教育効果について「特徴的である」では解りにくいのので、「大学、短期大学とも教員の4割近くが考察型学修の学生が増え、5割近くが主体的に説明できる学生が増え、3割強が問題発見・解決体験を通じて実践力を身につけた学生が増えた」としており、主体的に考え行動するコンピテンシーの獲得に大きな効果があることが判明した。」と具体的な説明に変更した。
- ・分野別の集計を踏まえて、考察型学修では、「人文科学系、社会科学系で高い傾向が見られる」、主体性の向上では、「人文科学系、社会科学系、教育系、芸術系に高い傾向が見られる」のを追加した。
- ・教育効果と実施内容が分かりやすいようにクロス集計結果に人数を記入することにした。
- ・期待した以上に効果が見られないが1割あることから、「さらなる教職員の職能開発の推進・普及が期待される」ことを追加した。

(5) アクティブ・ラーニング（AL）を実施していない理由

- ・「大人数でも適切なグループ編成と役割分担があれば実施できること、15回全てでなく、数回のアクティブ・ラーニング導入でも効果が見られるので、授業の進め方に関するFDの普及が急がれる。」の表現は、決めつけられないので、以下のような回答内容の分析に改めた。
「大学教員の5割強が「学生数が多くて難しい」、大学・短期大学教員の2割前後が、「準備時間が確保できない」、「キメ細かく相談・助言する支援体制がない」としている。また、大学・短期大学とも5割の教員が「授業科目の到達目標にアクティブ・ラーニングは適さない」としている。」
- ・クロス集計結果が分かりやすいように集計表に人数を記入することにした。

(6) アクティブ・ラーニング（AL）を推進・普及するための課題

- ・「基本となる授業設計や授業方法及びそれらを支援する体制が十分準備されていないものと思われる」と決めつけるような表現を見直し、調査の分析を踏まえた表現「主体性を引き出す教育プログラムの導入、授業設計・方法を支援する体制の導入を課題としており、アクティブ・ラーニングの実質化に向けた大学としての教育システム及びその支援体制が遅れていることが明らかになった」にした。
- ・同様に「基盤的な学修環境としてICTを利活用できる仕組みや体制の整備が求められている」についても「基盤的な学修環境としてICTを利活用できる仕組みや体制を課題としてあげている」に修正した。

● 組織的に教育改革を進める教学マネジメントに対する関与の仕方

- ・分かりやすくするために解説の中で設問については、「」で区切るようにした。
- ・分野別の集計を踏まえて、「特に工学系では高い傾向が見られ」を追加した。

● 授業改善のための情報通信技術（ICT）の活用状況

(1) 授業改善のためにICTを活用している教員の割合について

- ・授業改善のためにICTを活用している教員の割合の表で、前回調査との増減を記入したが、比較については、「大学が約8.9ポイント増、短期大学が15.1ポイント増とパーセントからポイントに表現を修正した。

(2) 授業改善のための情報通信技術（ICT）の活用状況の分析と解説

- ・項目ごとに整理、設問には「」を付けて分かりやすい表現に修正した。
- ・分野別の集計結果を踏まえて「ネット上に教材・課題・小テストを掲載し、eラーニング

- で基礎知識の修得を行っているが、特に、情報科学系にこの傾向が見られる」を追加した。
- ・高い順にランダムに解析結果を記述したいが、分かりにくいいため、大きな項目ごとに説明するように改めた。
 - ・〇%（〇名）の表現を〇名（〇%）に修正した。
 - ・「・・・となっている」としていた表現は断定的なので「・・・と思われる」に修正した。
 - ・「以上のことから、3年先までに財政援助の拡大などで情報環境の整備が進んでいくようになれば、活用はさらに進むと思われる。」を追加した。

2-3 「ICT活用事例」、「特色ある事例」について

「情報通信技術（ICT）を用いて顕著な効果を上げている事例」（記述回答）に回答の1,420件の中から候補としてリストアップした学系・分野別の事例（約100件）について、検討を行い、10件について、「特色ある事例候補」として原稿を依頼することにした。

「ICT活用事例（現在・将来）」については、事務局で候補を選定し次回の委員会に諮ることにした。

3. 今後の予定

本日作成した平成28年度私立大学教員の授業改善白書（案）を基に、「ICT活用事例」、「特色ある事例」について、第2回委員会で検討することにした。

4. 次回のテーマ

平成28年度私立大学教員の授業改善白書及び「ICT活用事例」、「特色ある事例」のとりまとめを行う。

5. 次回の委員会

平成29年4月27日（木）18時30分～とする。